



■リーダーズ・ナウ [在学生インタビュー]

## 「KAISERS PRIDE」を胸に20年、より信頼厚きチームに成長する未来へ



2004年、体育会を総称するチームネームとして誕生した「KAISERS」は2024年に20周年を迎えた。所属するのは44部、総勢およそ2,500人。この「KAISERS」というチームネームは、誇りと責任感を浸透させることを目的に名付けられ、各部のつながりをより強固にし、切磋琢磨する良き仲間の絆を育み続けている。今回は、体育会本部副本部長、バレーボール部女子主将、ATルーム学生トレーナー部主将に、「KAISERS」の魅力を感じる分語ってもらった。



### KAISERSの歴史



▲昭和6年(1931)、日本コロムビア株式会社製作の「学歌(A面)」と「学生歌(B面)」を収録したSPレコード(関西大学合唱団) (関西大学 年史編集室所蔵・中嶋英文氏寄贈)

関西大学体育会全体のチームネームとして「KAISERS(カイザーズ)」が誕生したのは2004年。かぶとをつけて戦いに赴く皇帝の横顔をデザインしたシンボルマークも2024年で20周年を迎えた。「カイザー」はドイツやロシアの皇帝・王者の称号。古代ローマの軍人、政務官のカエサル(ジュリアス・シーザー)を語源とする言葉で、あらゆるスポーツで頂点を目指して突き進む姿勢を表している。その姿をなぞらえて、関西大学応援歌(カイザー関大)の歌詞に「カイザー」が使われ、これがチームネームとして採用された。「カイザー」が歌詞に登場する応援歌の歴史は古く、もともとは学生歌「桃源千里」などのタイトルで昭和初期(1930年頃)には歌われていた。日本コロムビア株式会社が製作したレコードの歌詞カードには「阿賀杜里作詞、阪東政一作曲」とある。この頃から「応援歌式に歌う」ことが推奨されており、これが応援歌になっていったとみられ、今も応援団によって勇壮に歌われるのを聞くことができる。作者の阪東政一さんは関西大学卒業生だが、作詞者についてはよく分かっていない。100年にわたって母校の勝利を願って歌われてきた「カイザー関大光あり」の歌詞は、チームネームとして定着している。

### ● KAISERSの仲間は刺激を与え合う存在



バレーボール部女子主将  
人間健康学部4年次生  
根来 あかねさん(大阪国際滝井高等学校卒業)

2024年の第47回総合関関戦では、「KAISERS」の代表として団結式での決意表明や開会式での選手宣誓を任せられました。その様子を見てくれた他団体の仲間から声を掛けてもらい、試合の応援に来てもらえることも。部の垣根を越えた「KAISERS」というつながりが、バレーボール部単独で活動するだけでは得られない、お互いを尊重し高め合う関係性を構築しています。現在、バレーボール部女子では練習メニュー



▲関関戦団結式での選手代表挨拶 (写真提供:関大スポーツ編集局)

や試合予定など、ほとんどのことを学生、特に4年次生がメインで決定しています。高校までは先生が決めていたことを、大学では“学生主体”で取り組むようになり、これは大学スポーツの魅力の一つだと感じています。今はその役割を担い、毎日とても忙しいけれど、充実しています。もちろんその中で主将として悩んだり迷ったりすることも多々あるのですが、そんな時には他団体の試合の応援に参加し、主将の動きや役割などを参考にすることもありますね。



▲試合中の様子 (写真提供:関大スポーツ編集局)

「KAISERS」みんなが体育会の仲間として交流することで良い刺激を受けながら切磋琢磨していけるのは恵まれているし、ありがたいと日々感じています。今後は「KAISERS」の中で、バレーボール部女子がより良い影響を与えられる存在になっていきたいです。

Player

### ● KAISERSを支える“縁の下の力持ち”



ATルーム 学生トレーナー部  
商学部4年次生  
鈴木 群史さん(清風高等学校卒業)

私たちは「KAISERS」の選手たちのコンディショニングを高めたり、負傷で競技離脱した際のリコンディショニングのサポートなどを行ったりしています。学生トレーナーとして活動できる部活というのは珍しいのではないのでしょうか。資格を有するアスレティックトレーナーの下で活動し、部内テストに合格することでサポートできる内容が高度になるという仕組みになっています。主な活動は、「ストレッチやエクササイズに



▲ATルームでの活動。可動域測定の様子



▲試合前、選手にテーピングをする様子

よる選手のサポート」、「各部のマネージャーにテーピングの正しい巻き方などを指導する育成活動」、「練習や試合に付き添い、応急処置などを行う帯同活動」の3つです。帯同した時に自分が巻いたテーピングで「これで痛みなくプレーすることができた」「おかげで勝てた」と声を掛けられた時は、本当にやりがいを感じました。

実は僕も高校時代にけがをしてテニスの道をあきらめた経験があり、負傷で競技離脱した選手たちの悔しい気持ちも分かります。だから自分たちの活動で復帰できた選手が、フィールドで活躍している姿を見ると力になれた喜びを感じますね。現在は部員が9人のみなので、もっと部員を増やして「KAISERS」全体をさらに手厚くサポートできる団体していきたいです。

Trainer

### ● 20周年を機により愛されるKAISERSへ



体育会本部 副本部長  
文学部4年次生  
井上 裕貴さん(明星高等学校卒業)

私たち体育会本部は、体育会各部の競技力向上や一体感の醸成に貢献できるように、年間行事の企画・運営や日常的な体育会活動のサポートをしています。

体育会で統一のチームネームがある大学は全国でも珍しく、この「KAISERS」という名称があることによって、団体同士のつながりや一体感が他大学よりも強いものになっていると自負しています。例えば毎月末に行う主将主務会後に「KAISERS DISCUSSION」というものがあり、活動に関する悩みや運営のアドバイスを話し合える機会があるのは「KAISERS」の一体感の表れではないでしょうか。

また大学近隣のお店・地域の方々にもこのチームネームの知名度は高く、ありがたいことに熱心に応援していただいています。今まで以上に多くの方々に「KAISERSの試合を応援しに行きたい」、「KAISERSなら試合を見に行こう」と言ってもらえるような土壌を、学校や地域と一緒に作り上げていくのが理想であり今後の目標ですね。僕たちは、体育会に誇りを持つという時に「KAISERS PRIDE」と表現します。今年、「KAISERS」は20周年を迎えますが、この名前の重みは20年間という長い時間をかけて、先輩方の惜しみない努力で積み上げられてきたもの。これからも、この「KAISERS」という名前により大きな信頼を積み上げていけるようにしたいですね。



▲行事にて総評を行う様子 (写真提供:関大スポーツ編集局)



▲完成した関関戦パンフレットを片手に

Sports Club Headquarters